令和５年度

一般選抜（Ⅰ期）問題

試験日　２月２日

日本史

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

注意事項

① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
② 開始の合図後、解答用紙に「氏名」、「個人番号」を記入すること。
③ 受験票、筆記用具以外は、机上に置かないこと。
④ 受験票は机上に貼付してある「個人番号」の手前に置くこと。
⑤ 記述解答で、字数の指定がある問題では句読点は１字として数えること。
⑥ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
⑦ 試験中は退席しないこと。（気分が悪くなった場合は、手を挙げて監督者に知らせること）
⑧ 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。

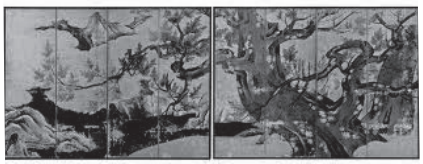
〔1〕 次の文章は、2022年に起きた出来事を振り返った大学生と先生の会話である。この文章を読み、下記の問いに答えなさい。

優花：令和4年に、東京の上野公園（上野恩賜公園）にある東京国立博物館に行ったところ、創立150年記念の特別展「国宝　東京国立博物館のすべて」が開催しており、教科書で見る資料を間近で見ることができました。

正史：上野公園は、江戸時代は寛永寺の境内地でしたが、1873（明治6）年の(1)太政官布達によって、明治9年日本初の公園として整備、登録されました。そして、東京国立博物館の始まりは、1872年（明治5年）に(2)湯島聖堂で開催された博覧会でした。そして、同年には、(3)正倉院をはじめ古社寺の調査を始めました。上野公園に、博物館が完成したのが1882（明治15年）です。1887（明治20）年には、(4)東京美術学校が設置、1898（明治31）年には(5)西郷隆盛像が作られました。

優花：ここで、私が見てきた代表的な展示品を具体的に紹介したいと思います。

① 檜図屏風



② 鷹見泉石像

③ 太刀　銘備前国長船住景光
元享二年五月　日
（号小龍景光）

Image: TNM Image Archives

④ 見返り美人図

⑤ 片輪車螺鈿蒔絵手箱

Image: TNM Image Archives

⑥ 金銀鍍龍首水瓶

Image: TNM Image Archives

正史：1952年（昭和27）に、東京帝室博物館から東京国立博物館に改称されました。収蔵品は現在約12万件。このうち(6)国宝89件、重要文化財648件と日本を代表するコレクションで、日本史の教科書にも掲載されているものが多くあります。

問１　下線部(1)について、太政官のもとに各省をおく組織がつくられたが、祭政一致・天皇親政の方針から参考とされた古代の法典を答えなさい。

問２　下線部(2)について、湯島聖堂を建てた将軍を答えなさい。また、湯島聖堂とは何を行うところか、簡潔に説明しなさい。

問３　下線部(3)について、正倉院宝庫を持つ寺院を答えなさい。また、その北倉・南倉にみる三角形の木材を組んで壁面を構成した建築様式を答えなさい。

問４　下線部(3)について、正倉院宝庫の宝物は、聖武太上天皇の死後、皇太后が遺愛の品々を寄進したことが中心となるが、その皇太后を答えなさい。

問５　下線部(4)について、フランスで学び、東京美術学校の西洋画科で指導に当たった人、また、彼が中心となって結成された洋画団体を、下記のＡ・Ｂ群からそれぞれ選び記号で答えなさい。

Ａ群：a　黒田清輝　　b　岡倉天心　　c　高橋由一　　d　狩野芳崖

Ｂ群：a　白馬会　　b　日本美術院　　c　二科会　　d　国画会

問６　下線部(5)について、西郷隆盛像の作成者は、老猿など木彫を手がけた人であるが、誰か答えなさい。また、西郷隆盛を首領として九州各地の不平士族が起こした反乱を答えなさい。

問７　下線部(6)について、国宝・重要文化財と区分されて指定されたのは、文化財保護法である。その文化財保護法が制定された年を答えなさい。また、国宝という概念は明治時代から存在し、それを考えた日本にゆかりのあるアメリカ人を答えなさい。

問８　展示品６点（①～⑥）を作成の古い順に並び替えなさい。

問９　①の作品について、作者の説明を、下記の選択肢から選び記号で答えなさい。

a　水墨画に伝統的な大和絵の手法を取り入れ、代表作は大徳寺大仙院花鳥図。
b　安土城・聚楽第・大坂城の障壁画を描き、代表作は唐獅子図屏風。
c　金碧障壁画と水墨画の両方に勝れ、代表作は智積院襖絵楓図・桜図と松林図屏風。

問10　②の作品について、その作者の著作物およびゆかりの地を、下記のＡ・Ｂ群からそれぞれ選び記号で答えなさい。

Ａ群：a　戊戌夢物語　　b　慎機論　　c　西域物語
Ｂ群：a　陸奥国水沢　　b　三河国田原　　c　越後国蒲原

問11　③の作品（太刀）について、刀工流派である備前国長船はどこに所在したのか、現在の都道府県で答えなさい。

問12　③の作品に関連して、武士の成長とともに、鎌倉時代には武具の製作が盛んになった。刀剣作りで有名な正宗はどこの人か、下記の語群から選び記号で答えなさい。

a　備前　　b　京都　　c　鎌倉　　d　平泉

問 13　④の作品（肉筆美人画）について、作者を答えなさい。また、その作者は、本の挿絵から版画を独立させ、芸術作品に高めた。その木版画を何と呼ぶか答えなさい。

問 14　⑤の作品について、デザインの車輪は、何の車輪か答えなさい。また、使われているＡ螺鈿、Ｂ蒔絵という手法の説明を、下記の選択肢から選び記号で答えなさい。

a　漆で文様を描き、それに金・銀などの金属粉を巻き付けて模様とする漆器の技法。

b　貝殻の真珠光の部分を薄く剥いでみがき、種々の形に切って漆器に埋め込む技法。

c　漆器表面の朱塗りを研ぎ破り、下地の黒塗を露出させる技法。

問 15　⑥の作品について、ある寺院から献納された作品である。その寺院およびその寺院が存在する都道府県を答えなさい。

〔2〕次の史料を読み、下記の問いに答えなさい（史料は省略したり、書き改めたりしたところがある）。

其の一に曰く、「昔在の天皇等の立てたまへる(1)子代の民、処々の屯倉、及び、別には臣・（　①　）・伴造・国造・村首の所有る(2)部曲の民、処々の田荘を罷めよ。仍りて食封を大夫より以上に賜ふこと、各差あらむ。」

其の二に曰く、「初めて京師を修め、畿内・（　②　）・郡司・関塞・斥候・防人・駅馬・（　③　）を置き、及び鈴契を造り、山河を定めよ。」

其の三に曰く、「初めて戸籍・計帳・（　④　）の法を造れ。」

其の四に曰く、「旧の賦役を罷めて、田の（　⑤　）を行へ。……（中略）……別に戸別に調を収れ。」

問１　空欄（　①　）～（　⑤　）に入る適切な語句を答えなさい。

問２　下線部(1)(2)について、最も適切な説明を、下記の語群から選び記号で答えなさい。

a　朝廷の直轄民と直轄地　　b　豪族の私有民と私有地

問３　この史料は、一般に何と呼ばれているか答えなさい。また、この史料が示した政策方針を説明しなさい。

問４　この史料が掲載されている史書を答えなさい。

〔3〕次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

源頼朝の死後、(1)大江広元・(2)三善康信ら貴族出身の頼朝側近と、北条時政・梶原景時・三浦義澄・比企能員・(3)和田義盛ら有力（　①　）からなる13名の合議制によって政治が行われた。有力な（①）のあいだで政治の主導権をめぐる争いが続いた。

1203年、頼朝の妻（　②　）の父北条時政は、（　③　）の後見の比企能員を滅ぼし、（③）を伊豆の修禅寺へ幽閉して、翌年暗殺した。その弟の（　④　）を立てて幕府の実権を握った。この時政の職位は（　⑤　）と呼ばれて、子の（　⑥　）に継承された。さらに、（⑥）は和田義盛を滅ぼし、その地位を固めた。

1219年、将軍（④）が、（③）の遺児公暁に暗殺される事件が起こると、これをきっかけに、朝幕関係が不安定になり、(4)1221年（　⑦　）上皇は、（⑥）追討の兵をあげた。その戦いは幕府の圧倒的な勝利に終わり、幕府は（⑦）上皇を（　⑧　）に配流した。

問1　空欄（　①　）～（　⑧　）に入る適切な語句を答えなさい。

問2　下線部(1)～(3)について、それぞれ長官を務めた機関を答えなさい。
また、主な業務を簡潔に説明しなさい。

問3　下線部(4)について、この争いを何と呼ぶか、答えなさい。